おかげさまで 30 年　母校を愛するあなたに会いたい！

30th Anniversary

社会学部同窓会創立３０周年
記念誌

2019 年（令和元年）

法政大学社会学部同窓会

法政大学社会学部同窓会　30 周年記念誌に寄せて

会員の皆様に支えられ、お陰様をもちまして 30 周年を迎えることができました。改めて、皆様のご協力とご支援に感謝申し上げます。

30 周年にあたり、長く社会学部同窓会の運営に携わって来られた方達に思い出を文章にしていただきました。お名前を見れば、「なるほど」と納得されるのではないでしょうか。そして一読すれば、執筆者の皆様が、母校法政と社会学部同窓会を愛する熱い想いをお持ちであることをご理解いただけると思います。

会員の皆様には、同窓会を愛し運営にご尽力下さった方達の熱い想いを記憶に留めていただき、同窓会の新たな歴史を作るためにご協力を宜しくお願いいたします。

執筆者の皆様に心より感謝申し上げ、御礼の言葉と致します。ありがとうございました。

社会学部同窓会 会長　髙橋敏（1978 年卒）

目　次

			頁
交游の楽しさ	北條　利男	1960 年 3 月卒	1
社会学部同窓会 30 周年おめでとうございます	吉﨑　秀夫	1961 年 3 月卒	1
社会学部同窓会で思うこと	中村　一廣	1961 年 3 月卒	2
社会学部同窓会 30 周年記念に思いを寄せて	近藤　栄一	1961 年 3 月卒	3
認知症予防と健康麻雀	藤永　正順	1957 年 3 月卒	4
20 周年記念植樹の思い出	濱名　　達	1965 年 3 月卒	4
恩師と楽しんだ旅　　ミニＯＢ会も	大沼　邦彦	1967 年 3 月卒	5
人生、法大、社会学部だ!!	塩田　利明	1967 年 3 月卒	5
二つの思い出の行事	水上　久忠	1970 年 3 月卒	6
法政大学時代の思い出	星野　昌弘	1976 年 3 月卒	7
大矢さんの思い出	金子久美子	事務局員（3 代目）	7

交游の楽しさ

北條　利男
応用経済学科 1960 年 3 月卒

先日、社学の友人から「何故法政に入ったのか？」と質問されて、「試験が 3 月末で一番遅かったから」と答えた。高卒後、就職して仕事の環境から学問の必要性を痛感し、または進学が前々から希望でもあったので、受験・入学した。法政ではノンポリといわれる仲間たちと演劇・音楽・美術に傾注して見学・語り合う「よき友」に恵まれ有意義な 4 年間だった。ただ、就活では大変苦労して、他大学の友人たちが名のある企業に決まっていくのに、取り残されていく自分が不安でならなかった。会社員になって法政の社学で学んだことや「よき友」との交遊が大いに役立ち、自分自身のバランス感覚にはかけがえのないものが醸成されていたことを、仕事を通じて気づかせられた。

同窓会とのかかわりは、社学同総会創立総会に出席したこと。初代会長や近隣の先輩に誘われて入会したが、心はサラリーマン生活での学歴差別の経験から法政のグレードアップにほんの僅かでも役立てばとの思いがあった。

今は、学校法人の努力で法政は東日本トップの志願者という快挙を 2 年続けていることはＯＢとして誇らしく思っているのです。同窓会に入ってのメリットは会員同士の交遊、企業のＯＢ経営者とも知り合ったこと、教授との話し合う機会があることなど高齢になっても交遊が増えることは楽しいことです。

社会学部同窓会 30 周年おめでとうございます

吉﨑　秀夫
応用経済学科　1961 年 3 月卒

同学年の友人との想い出話が主になりますが、5 月 18 日に女屋（評論家小沢遼子さんの夫）の 49 日に奥様から話があり、川口の善光寺へ家内と二人で行きました。荒川の土手の側で上がり、東京方面に向かい右手にＪＲの鉄橋、その先に結婚するまで住んでいました赤羽が観えて感無量となりました。当日は、親族が主で友人で同席いたしましたのは、私と家内の二人きりでした。葬儀の時と同様、私が挨拶を頼まれ、高校・大学と女屋との付き合いのうちで最後の天国へのセレモニーまで私とは夢にも思いませんでした。大学生の頃、全学連で安保闘争のデモのリーダー名でやっていた彼！

高校は、東京・上板橋にある城北高校でラグビー部の清水と三人、社会学部に入学し、女屋は武蔵小杉まで遠いというので学校の近くに下宿して、授業の合間に押しかけたものでした。先日他界をされた千葉なども仲間に入り、便利な拠点となりました。

私は、実家の父が都庁の公務員で弟と妹がいたので浪人はせず進学を、同級生は一浪して法政以外の六大学へ進学していきました。そんなわけで、吉虎には兄が二人、姉が一人いまして、末娘と店の4代を継承する巡りあわせとなりました。兄二人は川越でも優秀な人物で料理屋の枠でありながら、慶応大学の医学部に入学、長男は付属の日吉高校から学年で10番以内で医学部へ、次男は東大も合格しましたが臨床をとの希望で長男と同様慶応大学に入りました。また、次男は、医術を世のため人のためにと長野県の山田村という無医村に赴任いたしました。長男は、名古屋保健衛生大学の学長に！

それらの環境の中で、平成3年に3億の借金をして、兄たちの出世に負けぬ店舗の新築を完成いたしました。後で、実家の店舗よくやってくれたと褒められました。また、先日、法人会の講演にＮＨＫ大相撲解説者「舞の海秀平」氏が「人間やってできないことはない」の本人の相撲人生を語り、感動したことも良き思い出となりました。

社会学部同窓会で思うこと

中村　一廣
応用経済学科　1961年3月卒

私が同窓会に関係したのは、30 年前、多摩校舎で設立総会があり、初代会長は黒坂一久氏が就任しましたが、彼とは増島ゼミで一緒でした。創立2年目に黒坂氏より手伝ってほしいと要請があり「世話人」から始まり、「幹事」「理事」現在は「常任理事」と変わり、歴代会長の2代目森田氏、3代目鹿山氏、4代目中山氏、5代目高橋氏の下、30年ほどお手伝いや行事に参加してきました。

【都内及び近郊の散策会】

事業委員の時に都内及び近郊の散策会を事業の一環として行いました。まず、鎌倉散策では、鎌倉にお住いの山本友一氏の案内で、鎌倉文学館や鶴岡八幡宮裏手の散策等、とても良い経験をさせていただきました。また、小江戸といわれる川越散策では、当地で古い歴史を持つ料亭「吉虎」のオーナーである吉崎秀夫氏の案内で散策会を実施いたしました。その他には「高尾山」「青梅御岳山」「赤坂周辺」「護国寺周辺」や通称「谷根千」といわれる谷中、根津、千駄木周辺、「板橋宿」「品川宿」等々、東京の再発見と情緒あふれる場所を散策することができました。

【オール法政新年会】

第1回の開催は、ボアソナードタワーから始まり、平成最後のグランドニッコー東京台場開催のまですべての会に参加させていただきました。家族同伴可ということもあり、家内も数回参加しました。その中で、歌手「藤川ゆかりさん」とも知り合えることができました。さらに数年前、彼女が校長をしている中央学園アートスクールの開校式に招待され

ことも良き思い出となりました。また、私の婚約指輪を選択していただいた宝石店のオーナーが偶然にも、前事務局長の水上氏の父であられたこと、各業界の著名な同窓生とも交流ができましたことは自分にとって大切な宝となりました。

【社会学部卒業祝賀会と箱根駅伝応援】

祝賀会は、卒業生を祝うことですが、同時に同窓会員を増やす目的でもあります。さらには卒業論文学生の表彰を行ってきました。年々女子学生が多くなり、私の卒業時を思えばかなり華やかさが増してまいりました。箱根駅伝応援では、横浜駅前、青物横丁駅前、品川駅前にて大声で声援を送り、選手から若いエネルギーをたくさん貰うことができました。また、現事務局長の中氏が 7 区を走った経験談を聞くこともあり、参加するたびに母校愛が強くなってきたことも実感しました。

私も 80 歳を超えて残り少ない人生ですが、母校「法政大学」と「同窓会」に属したことにより、私の人生を豊かにしていただいたことに深く感謝を申し上げる次第です。

社会学部同窓会 30 周年記念に思いを寄せて

近藤　栄一

応用経済学科　1961 年 3 月卒

1　思い出に残るエピソード

思い出しますねぇ・・・社学同発足（1989 年・平成元年）のころ、会員募集と資金（会費）調達の基本「社部卒業生名簿」の作成・販売を試みましたところ、資料不足と内容不出来のため見事に失敗、製本代など大赤字を出し、名簿作成にかかわった一部役員の個人負担で何とかピンチを凌ぎました。今は昔の古くて苦いお話です。

2　出会い

同窓会との出会いは、在学中のお仲間が、法政大学の文系学部初の同窓会長として頑張っており、誘われるままにお手伝いをすることになりました。その後、故人となられた森田さん、鹿山さんとお付き合いをしていろいろと教えを受け、役員の皆様からは諸行事を通じて、会員の皆様からは、会報を通じて貴重なご意見をいただきました。いまはただ「一期一会」を大切に感じております。

3　感謝

1989 年（平成元年）11 月 18 日「毎日新聞」で報じられた法政大学川崎第 2 グランドの売却に関する校友会理事・監事の不祥事問題と期を一にして生まれた社会学部同窓会、校友会への危機感と再建への熱意に学部本来の姿が見られました。紆余曲折を経て 2002 年（平成 14 年）10 月、「校友連合会」発足、そして、各学部同窓会をはじめ諸団体の協力で 2014 年（平成 26 年）4 月 1 日「一般財団法人法政大学校友会」設立。此処

に「大学」、「後援会」、新生になった「校友会」の三位一体の組織作りが完成したのです。

４　ご苦労

近くのコンビニで５月３日、10 日合併号の「週刊朝日」を手にしました。「2019 年大学入試、本誌が独自調査　有名私立大学実志願者数ランキング」本当に人気があるのは？法政大、明治大、早稲田大、日本大、東洋大・・・とあり、わが母校が１位にランクされておりました。大学、後援会、校友会（各学部同窓会等）の結束が評価されたように思いました。同窓会の皆さん、是非、諸行事に参加して、見て、聞いて、「法政おおわが母校」を語りたいものです。

認知症予防と健康麻雀

藤永　正順
第一社会学部　1957 年３月卒

まる２年間の空白期間（前立腺がんの治療期間）を経て、「賭けない」「飲まない」「吸わない」をモットーとする健康麻雀を再開。老若男女が和気あいあい楽しんでいます。指先で牌に触れることが痴呆状態即ち認知症の予防に役立っていると確信しています。

麻雀というゲームは、４人が卓を囲みゲームを進めていく娯楽競技であるが、それぞれの息遣い、牌の打ち方を通してその人の癖、性格まである程度分かるといわれている。

概して、協議中に終始ペラペラしゃべりまくる人には強い人はいない。私はできる限り寡黙に徹するようにしている。

20 周年記念植樹の思い出

濱名　達
社会学科　1965 年３月卒

10 年前の 20 周年の時、記念の植樹をすることになり、当時、事務局長をしていた私は、いろいろ思案の上、学部生の時、社会学史担当の本田喜代治先生から社会学の創始者は、オーギュスト・マントだということを聞いていたのを思い出した。そこで調べてみると、マントは、18 世紀の終わりごろ、南フランスのモンペリエで生まれたことがわかった。どのように調べたかは忘れたが、その町には、月桂樹が多く植えられているということも解り、記念樹は月桂樹にすることにした。それまで１・２回相談していた三浦先生に伝えると、理由

ははっきり言わなかったが、他のものにしたほうがいいといわれ、今の「プラタチス」」にした記憶がある。おそらく先生は、マントをブルジョア社会学とみていたのではないかと思った。多摩キャンパスの社会学部棟の南側の芝生の中に立っている。

恩師と楽しんだ旅　　ミニＯＢ会も

大沼　邦彦

応用経済学科　1967 年 3 月卒

8 年間続いた恩師との旅の始まりは、同級生M君の病気見舞いがきっかけだった。私達土生長穂ゼミ 1967 年 3 月卒は、在学中から結束力が強く、卒業後も恩師の土生先生を囲み、しばしば懇親会を開いていた。そんな折、大病から奇跡的に回復したM君のことが話題になり、お見舞いを兼ねて 8 人で奈良・京都の旅が決まった。これが最初の旅の始まりだった。

2008 年 9 月 25 日、奈良市内のホテルでMくんと数十年ぶりに再会。その元気な姿に同級生から驚きの声が上がった。同夜、ＪＲ奈良駅前の居酒屋での宴会は、時間を忘れるほど盛り上がり、先生も終始笑顔だった。その後、毎年先生との旅が始まり、以降②岩手・花巻と中尊寺、③金沢、④北海道、⑤琵琶湖周遊、⑥奈良・飛鳥、⑦沖縄、⑧大阪・高野山、⑨千葉・南房総と続いた。

また、ミニＯＢ会と称して札幌では現地在住のＯＢ4 人が参加してホテルで懇親会を開催した。大阪でもＪＲ大阪駅地下も居酒屋でミニＯＢ会を開き、近畿在住の 5 人と飲み会を開き、旧交を温めた。また、沖縄でもＯＧが歓迎してくれ、昼食を一緒にしながら歓談した。

そして、2016 年 5 月の旅行は九州・長崎方面と決まり、旅行会社に料金を払い込む寸前、あの熊本大地震が発生した。紆余曲折があったが、結局、現地被災者の気持ちを配慮して中止となった。

人生、法大、社会学部だ‼

塩田　利明

応用経済学科　1967 年 3 月卒

社会学部との出会いは、1963 年 4 月の高３の春休み、兄の法大・東京都体育館での入学

式に付き添ったことによる。当時、多くの入学制は、ツメ入りの学生服を着ていた。その姿を見て「俺もこの中の一人になりたい」と思ったのがきっかけ。次の年、無事努力の甲斐があり入学できた。田舎の家で「ヤッター」と飛び上がったものです。福島商業高校だった私は「就職」と決めていたから。

入学後は、大田区東糀谷に下宿。下宿のおばさんに夕食のおかずをいただいたり、人情に触れあった生活だった。通学は長かった。京浜急行の大鳥居で乗り、品川、東京、お茶の水で乗り換え、飯田橋まで 1 時間 30 分かかった。それも通勤地獄の中で。1 時限目の講義は、目がくっついて居眠りが多かった。朝食は、あの地下の学食で納豆定食。お世話になりました！先輩から「法政の教授陣は天下一」と聞かされていたが、私の学業はまだ腰が定まらず心細いものだった。それでも
土生ゼミに入ってから世界政治論の本を多く読まされ、少しずつ日本と世界の課題が見えてきたように思う。卒論のための勝浦合宿では、土生先生より明け方まで「甘さ」を指摘されたものです。1964 年、2 年生の時の東京オリンピック開催は、法政出身の三宅義信、義行兄弟の重量挙げ、金、銅メダル獲得には驚かされ、誇りに思った。55 年後、三宅義行氏のご令嬢、オリンピックメダリストの三宅宏美さんと埼玉県校友会でご一緒できるのも、法大のご縁だ。

二つの思い出の行事

水上　久忠
応用経済学科　1970 年 3 月卒

2012 年度（平成 24 年）社会学部は、設立 60 周年記念を迎えるになりました。1952 年 2012 年 11 月 24 日に記念事業シンポジウムは私大初の社会学部、これからの 60 年と題しして須藤春夫社会学部教授がコーディネーターと開催責任者で取りまとめておりました。パネリストには、成田康昭氏立教大学社会学部教授、伊藤守氏早稲田大学・総合科学学院教授、吉尾理氏日本電気ソリューション開発本部シニア・マネージャー、中塚史行氏特定非営利活動法人教育サポートセンターＮＩＲＥ代表、矢向禎人氏独立行政法人国際協力機構東・中央アジア部主任調査役、田部井華代子氏東日本旅客鉄道事業本部、島本美保子法政大学社会学部教授で開催されました。

もう一つは、田中優子総長就任を祝う会です。田中教授が社会学部長に就任されたときに社会学部同窓会会長中山重臣、私は副会長をしておりました。増田壽男総長が任期満了となり、総長選が始まり、その去就に関心が高まっていました。総長選では田中先生が選出されました。当時、常務理事社会学部教授徳安彰先生に就任を祝う会の開催タイミングについてご相談をしました。就任される前に開催しなければ、時間の調整が難しいとの助

言をいただきました。文学部同窓会水落功さんと協働で開催することにしました。多くの卒業生からも参加をしたいとの問い合わせがあり、会場の物理的な問題が起こらない、最大限までの人数にすることにしました。

法政大学時代の思い出

星野　昌弘
応用経済学科　1976 年 3 月卒

私が法政大学を知ったのは、高校時代に読んだ岩波新書Ｋ・マルクス著「空想より科学へ」に感銘を受け、その訳者が大内兵衛であったこと。大原社会問題研究所が法政大学にあったこと、大内兵衛が総長をしていた大学であったことなどでした。1950 年に大内兵衛がなってから 1951 年に専門学校から学校法人になり 1952 年私が生まれた年に、入学した社会学部ができたのも何かの縁を感じました。

私が入学した当時、女性のファッションはホットパンツ、男性はジーンズで長髪というのが流行でした。社会的には札幌オリンピックやミュンヘンオリンピックがあり、一方で連合赤軍による浅間山荘事件などもありました。

大学時代で思い出すのは入学したクラス会が、その年の夏に日光で合宿を行ったことです。その後、クラス会は同窓会となり、毎年 1 回相互の健康を確認しあう会として 43 年間も続けて新年会が開催されています。

もう一つの思い出は、何といっても土生ゼミで生涯の伴侶を見つけたことです。1976 年卒業と同時に土生先生夫妻の仲人によって結婚したことは、一生の思い出となりました。土生先生が仲人となり結婚したゼミ生は三十数組となっています。土生ゼミのＯＢ会が 100 名以上集まるのもそういった縁があるからと思っています。したがって、私にとっての法政大学は学業のみならず、生涯の思い出の場所でもあるのです。

大矢さんの思い出

金子久美子
事務局員（3 代目）

1992 年 4 月、法政大学多摩学務課へ週 2 日勤務の臨時事務職員として採用された。その 1 年半後、社会学部同窓会の事務局員として声をかけていただいた。大矢さん（初代事務局長）に初めてお会いした時のことが昨日のことのように思い出される。ニコニコ顔で少しずつ仕事を覚えればよいこと、難しいことはないからと説得され、その優しい対応と熱心さに

一人職場の不安はあったものの同窓会の事務局員を始めることとなった。大矢さんは、日野市からバイクで同窓会室まで通って、総会、役員会準備、会報編集から発行まですべてご指導を受け、あっという間に 20 数年お世話になることとなった。どうしたら会員を増やすことができるのか、魅力ある会報はどのようなテーマが相応しいのか、会費の有効な使い方は？と多方面にご苦労をされてきた。当時は、高橋彦博先生が大学に勤務をされていたので心強かった。仕事の合間には六角校舎のこと、麻布時代のこと、ゼミの先生の話等、まるで私がその場にいたような錯覚さえ起こすほどたびたび話を伺った。大学の卒業生で、大学職員を仕事として一生涯法政大学を愛された方は大矢さんだけではないが、縁の下の力持ちを絵にかいたような人であった。胃がん、脳梗塞と病み、今では遠いところから見守ってくださっている。歴代事務局長にご指導を受け、学部の先生方、職員の方々にお世話になり、会員数は思うように増やすことができなかったことが悔やまれるが、私自身がとても楽しい大学での時間を過ごせたことに感謝している。

おわりに

2019 年 5 月 26 日（日）東京六大学野球　対明治戦、一塁側内野席に陣取りました。吉﨑、中村、高橋そして自分であります。数席右側には応援団席。気温は 30 度越え。もちろん日蔭ではありません。周囲を見渡すと 1970 年以前に卒業されたと思われる面々がズラリ。皆大声を張り上げ、一喜一憂しておりました。この環境の中ではありますが、熱く燃え滾る何かと、結束して校歌を歌えるこの神宮の森と、母校を愛する心の絆がそうさせていると痛感した次第であります。

原稿をお寄せいただいた社会学部同窓会ＯＢ・ＯＧも、大学野球に負けず劣らぬ愛校心を感じさせていただきました。本当にありがとうございました。

今後は 50 周年を目指し、様々な取り組みを計画してまいる所存であります。引き続き絶大なるご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

事務局長　中 正美